

Framework of 'STI for SDGs Roadmap' (Tentative)

[5 月 8-9 日の国際専門家会合@東京において発信する予定]

1 . 現状

我が国では、人口減少と高齢化が進行し、同時に「大企業と中小企業」、「都市と地方（過疎化）」、「若者と高齢者」や「富者と貧困」等、いわゆる「格差と分断」が急速に拡大し、皆が共有できるような未来の社会像が描きにくい状況にある。

国家を超えて進行する「格差と分断」は、冷戦終結後一時安定を見た地政学的環境を、再び不安定化し、国際社会・経済の持続的な成長・発展の先行き不透明性を増す要因ともなっている。

このような分断の傾向を収斂・統合の方向に転じない限り、我が国の、そして世界全体の一体的な持続的な発展を実現することは不可能である。我が国が「第 5 期科学技術基本計画」で掲げた「Society 5.0」は、これら課題を包括的に解決するために、目指すべき社会像である。

我が国は、2017 年 12 月に「SDGs 推進本部会合」を開催し、総理大臣から「STI for SDGs Roadmap」策定の指示を受けた。SDGs の多様な目標の中には、先進的な「水処理技術」や「環境技術」といった我が国が得意とする分野と、我が国が不得手とする破壊的イノベーション（Disruptive innovation）が必要な分野の双方が含まれ、各々の課題・目標に対応した、より効果的で効率的な取組の検討が必要となっている。

2 . 我が国が目指す「Society 5.0」

我が国が目指す「Society 5.0」は、拡大する「格差と分断」の要因となっている実空間上の諸制約を、サイバー空間活用など科学技術イノベーションの力により実質的に縮小・解消し、全ての国・組織・人々の発展と共存を図るためのものであり、同時に地球上のあらゆる資源を最適活用することで、世界の持続的な発展を可能とする社会である。

「Society 5.0」の基本概念は、物理的な制約・不都合から解放された人間の安寧・幸福を追求した「Human Centric」つまり「人間主体」な社会であり、これは SDGs が目指す「格差を解消し、誰一人残さない持続的社会的実現」と同義である。

我が国は、この「Society 5.0」の実現を中心に据えた「第 5 期科学技術基本計画」を 2016 年から実施中で、現在、同計画の下、「統合イノベーション戦略」の策定を進めている。

同戦略では、IoT や AI を駆使して人口減少や高齢化に伴う諸問題を解消し、バイオ技術を駆使して健康寿命を延ばし、ロボット技術を活用して人間の諸活動を支援し、ドローンや自動運転等のモビリティ技術により過疎問題を解消するなど、Society 5.0 を実現し、これを世界に発信するためのイノベーション戦略を描いている。

その際、「Society 5.0」の実現のために不可欠な「サイバー空間を支えるインフラ（基盤）」としてのデータ連携基盤が最重要事項として挙げられており、これも、世界の国々との連結を念頭に置いている。

同戦略では、上記のイノベーションを推進し、並行して、データ連携基盤を構築する上で必要となる科学技術イノベーションに関連した諸制度の改革の推進も図ることとしている。

3. 「SDGs」と「STI for SDGs」の推進体制

我が国としては、総理大臣をトップとし、関係府省庁・自治体・民間・大学・NGO/NPO 等も一体となった体制で、SDGs に向けた取組を推進している。特に、「STI for SDGs」については、内閣府 CSTI が中心となって、推進を図っている。

4. ロードマップの策定

我が国は、「Society 5.0」の実現の具体的方策をもとにして、SDGs の 17 の目標にそれぞれ関連する政策や計画を分析（整理）し、「STI for SDGs ロードマップ」を作成している。

「Society 5.0」の実現に向けた破壊的イノベーションに対応するため、例えば、雇用の確保に関する問題については、策定中の統合イノベーション戦略において、AI 戦略を主要項目として位置づけ、その人材基盤の確立を目標として掲げることになる。

また、日本全体として「STI for SDG」の推進を図るため、政府の各種計画・戦略（閣議決定）において、SDGs 達成のための具体的な道のり（個別課題のロードマップ）を明記することとし、このロードマップ推進のためのレビューメカニズムの在り方を検討していくことになる。

加えて、民間、大学、非営利団体など関連する全ての主体が独自のロードマップを策定することが期待され、これらは日本のロードマップに統合されることとなる。

このような統合的、戦略的かつ機動的な STI for SDGs ロードマップが、国連のレビューメカニズムとも密接に連携しながら有益な役割を果たせることを日本が自発的に示し、他国に対しロードマップの活用を促すことで、SDGs 達成に向けた STI の活用を地球規模で加速させることを提案したい

これらを統合的に推進することで、「SDGs」及び「Society 5.0」の実現を着実に図ることとしている。

5. 国際協力

SDGs 達成のための我が国の国際協力は、無秩序な資金支援や事業ではなく、両国にとって Win-Win であり、質が高く、持続可能な発展をもたらすべきものである。我が国として、どの SDGs 関連技術を以て、各国のどの problem を共に解決できるか、について分析を進めている。将来的には、STI による SDGs 達成を促進するため、日本型 solution と国内外の problem をマッチングするためにプラットフォームの構築を目指している。

また、日本の STI ロードマップ策定のメソッドロジー（方法）については、各国が SDGs を推進するに際して活用いただき、フィードバックをいただくことで、我が国も自ら学びたいと考えている。関心を持つ国があれば、協同してロードマップ作りを実施したいと考える。

さらに、この後、JST からは、その一例としてロードマップ策定のためのガイドライン（案）について発表予定があるので、これを参考にさせていただくことや、ロードマップ作りを推進していくために必要な支援環境整備の在り様について、日本として積極的に検討していきたいと考える。

6. 国際連携

以上述べてきたような取組は、国内的にも国際的にも野心的な構想であり、独力では難しく、広く外部の知恵も必要とするので、是非世界各国と共に推進していきたい。

我が国の取組もいまだ模索中であるため、今後は類似の課題を持つ国々は共通の関心事項に関して共に検討を深めることが有益と考える。

来年の首脳レベル報告、G20、TICAD に向けて更なる取組の brush-up を図っていきたいと考える。

参考

IATT-STI Guidance Note to the Questionnaire on STI Roadmaps for SDGsSTI for SDGs Roadmap に盛り込むべき 10 の要素

1. Methodologies:

STI のニーズとギャップを把握するための政策レビュー

将来予測、シナリオ、テクノロジーアセスメント

SDGs 達成に向けた更なる貢献の検討

2. Policy Contents:

統合や分野横断型アプローチを通じての STI ポリシーミックスについて

技術変化と破壊的技術を促進する社会経済的効果への対処について

STI と国家課題と戦略への関連性について

3. Process and Implementation:

STI に関するキャパシティービルディング（人材・組織）

産業界、学术界等の複数のステークホルダー関与に関する調整

進捗管理、評価

投資やファンディングなどのリソース